

佐伯市(九州・沖縄ブロック)

【計画期間 平成28年4月～33年3月】

- ・江戸期：佐伯藩2万石の城下町として発展、水産や木材で潤う
- ・明治～：港が開港、日豊本線開通、市街地が拡大
- ・平成～：旧佐伯市と南海部郡(5町3村)が合併し、九州一広い市域となる
- ・人口72,203人(平成27年国勢調査) 面積903Km²

【前計画の概要】

○「城下町」拠点では、大手前の再生を最重要課題として掲げ、暮らしの利便性を補い、新しい時代のニーズに応える機能配置を考えた施設整備に向けた取り組みを推進した。

○「駅・港」拠点では、より質の高い住環境やおもてなし環境を生み出すため、地域の福祉活動、情報交換、生涯学習などの自主的な活動を促進する施設として「駅前・港地域交流センター」を整備した。

(計画期間:平成22年3月～平成27年3月)

【中心市街地の変化】

○「城下町」拠点の最重要課題となっていた、大手前開発事業が事業手法上の手続きに時間を要し、計画期間内の完成が見込めず、「歩行者通行量の増加」は未達成となった。

○観光ガイドの育成事業とミニツアーの連携により、観光入込客数の増加につながった。

【目指す中心市街地像】

「人が集う街」の実現

人が街に愛着を持ち、市民は誇りを、来街者はまた行きたいという感情を抱きながら、使い続けられる街としての仕組みづくりを実践する。

便利で過ごしやすく人が集うまち

- 【主要事業】
- ・高次都市施設整備事業((仮)大手前まちづくり交流館) ・保育所建設事業
 - ・地域包括ケアセンター「佐伯の太陽」運営事業 ・城下町観光交流館運営事業
 - ・空き家・空き店舗活用実証実験事業 ・南海医療センター整備事業
 - ・魚市場リノベーション事業 ・中心市街地空き店舗活用事業
- など

■前計画の目標

目標	指標	基準値(H21)	目標値(H26)	最新値(H26)
地区住民・市民が集う街	歩行者・自転車通行量(平日・休日の合計平均)【4地点】	2,656人	2,837人	2,003人
来街者(観光客)が集う街	歴史と文学のみち(山際通り)の観光入込客数	141千人	156千人	145千人

■新計画の目標

目標	指標	基準値(H26)	目標値(H32)
便利で過ごしやすく人が集うまち	歩行者・自転車通行量(平日・休日の合計平均)【5地点】	2,391人	2,682人
	【参考】空き店舗率 追加	34.5%	27.6%
人々が活発に交流しふれあうまち	まちづくり交流人口	294,246人	333,997人

人々が活発に交流しふれあうまち

- 【主要事業】
- ・高次都市施設整備事業((仮)大手前まちづくり交流館) ・食育推進事業
 - ・城下町観光交流館運営事業 ・まちづくりセンター運営事業
 - ・巣立つ君たちへ「自炊塾」 ・「佐伯人創造塾」～人材育成事業～
 - ・さいき立志塾 ・まちづくり活動推進事業
- など

佐伯市中心市街地活性化基本計画の事業概要

便利で過ごしやすい人が集うまち

①高次都市施設整備事業((仮)大手前まちづくり交流館)
旧寿屋跡地を含む大手前地区においてホールを含む地域交流センター、まちおこしセンター、バスターミナル等の機能からなる複合施設の整備を実施。あわせて整備する広場と一体として活用することで、かつての賑わい拠点の再生を図る。



①

②南海医療センター整備事業

災害拠点病院である南海医療センターの耐震化整備と地域災害医療センターとしての施設整備を行う。



②

③保育所建設事業

郊外に立地する保育所を中心市街地内に移設することで、生活の利便性を向上させる。



③

④魚市場リノベーション事業

魚市場の耐震補強及びリノベーションを行うことで、従来の機能に加えた観光交流拠点整備を行う。

⑤空き家・空き店舗活用実証実験事業

中心市街地内の空き家を活用し、地域コミュニティの場づくりや居住対策を実施することで、既存ストックの有効活用を図る。

人々が活発に交流しふれあうまち

⑥城下町観光交流館運営事業

市民および観光客の相互の交流を促進するビジターセンターを運営することで、観光地としての魅力づけと周辺地域の賑わい創出を図る。



⑥

⑦まちづくりセンター運営事業

まちの担い手となる市民活動団体の拠点としてセンターを運営する。また団体間の交流促進や活動の活性化を図る。



⑦

⑧さいき立志塾

次代の経済を担う若手経営者を育成し、あわせて異業種間交流や産学交流を推進し、技術革新・新商品開発を図る。

中心市街地: 約157ha

